



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

校内研修支援のひろば	1
学力を高める授業のポイント（教科教育部）	2
第13回生徒研究発表会の報告（情報・産業教育部）	3
センター研究発表会（2月17日）のお知らせ	4
研修講座から	5

校内研修支援のひろば

児童・生徒理解に関する校内研修支援の様子を紹介します。

小学校での校内研修支援
(平成28年10月実施 90分)

当日の資料から

<学校のニーズ>

hyper-QU*の結果を職員で共有し、児童またはグループ、学級などの今後の指導についての方策を得たい。

<研修内容等>

◇Q-Uの概要

回答から、一人ひとりの結果を図式化して分析するという概要と、プロット図からの考えられる「子ども像」「学級像」や回答一覧表の見方。

◇Q-Uの分析と事例検討

担任による回答結果の分析と、連学年ごとの情報交換・意見交換による、児童理解。

◇Q-Uの活用

ルール定着のための「教室環境」「授業改善」「肯定的な言葉がけ」の紹介。
リレーション向上のための「リフレーミング」「勇気づけ」「問題の外在化」の紹介。

プロット図の見方

 侵害行為認知群 ・いじめを受けている可能性あり ・不安や被害者意識あり ・自己中心のなりがち ・他の子とのトラブルの可能性あり	 学級生活満足群 ・学級内に居場所あり ・学校生活に意欲的 ・明るく社会的 ・一部に自己中心的な子ども
 学校生活不満足群・要支援群 ・こだわり強く柔軟性や協調性欠如 ・不安や被害者意識が強い ・学級内に居場所なし 要支援群 ・耐え難い被害の可能性がある ・不登校の傾向あり	 非承認群 ・活躍の場が少ない ・無気力傾向、叱られることが多い ・学級内で認められることが少ない ・学習の定着が低い

<受講した先生方の声>

- ・Q-Uの具体的な検査結果のとらえ方が大変よく分かりました。
- ・多方面から子どもを見つめるための一つの手段として用いたい。
- ・実際の集計表を使って「この子は・・・」と教えていただいたのがわかりやすかったです。
- ・注意をしないで、してほしい行為を伝える等、言葉をかえていきたいと思いました。
- ・具体的な支援の在り方が見えてきたので明日からでもすぐ実践していこうと感じました。

*hyper-QU hyper-Questionnaire Utilities よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(株式会社 図書文化社)

学力を高める授業のポイント③

図工・美術編



子どもたちが楽しさを味わいながら力を付けていくためには、どんな授業づくりをしていったらいいのかなあ。どんな活動をどう位置付けたらいいか、いつも悩んでしまうんだよね。

トモニ先生



私は、子どもたちがいろんなことを相談しながら描いたりつくったりしていく活動がいいと思うわ。お互いに刺激し合って、楽しく取り組んでいけるような気がするの。

ミガコ先生



でも、相談して描いたりつくったりしていくと、いつの間にか雑談になっていたり、その子らしさがなくなってみんな同じような作品になってしまったりしないかな。

そういわれると不安になってくるわ。ただ形だけグループにしたからといって図工・美術の学力が高まるわけではないし…。



つなぐ先生

子どもたちが感じる図工・美術の本当の楽しさは、友だちと話げできた楽しさではなく、表したいことが表せたと感じた時、自己実現できたときに生まれるものですよね。

表したいことの実現に向かって夢中になっている時には、雑談にはならないでしょうし、友だちの方法をただ真似するのではなくて、自分の表したいことを実現するために友だちのよさを感じて取り入れるでしょう。

大切なことは、表したいことに向かって追求したくなる授業にすることです。環境づくりや相談し合うなどの活動によって、図工・美術でつけたいどのような力をつけることにつなげるか、ということです。

表したいことを実現するために、友だちの方法を自分の作品制作に取り入れていくことは、友だちの作品のよさを感じると鑑賞の能力をはたらかせ、さらにどんな形や色にしようかと考える構想の能力をはたらかせていると考えられるわね。



まず自分で考えをもち、表したいことがこの形や色で本当に表せそうかを友だちに相談することは、新しい方法に気づいたり、自分の考えに自信をもったりして構想の能力をはたらかせていくことになりそうですね。

図工・美術で学力を高める上で常に大切にしていきたい授業のポイントは、次の2点です。

- ①一人一人の表したいことの実現のための活動になっていること。
- ②実現のための活動が形や色などの造形的な要素に着目したものであること。

そして、本時の活動が、表したいことを思い付くためなのか(発想)、実現の見通しを考えるためなのか(構想)、工夫してつくるためなのか(創造的な技能)、美しさに気づいたり、味わったりするためなのか(鑑賞)ということが教師だけではなく、子ども自身にも意識されていることが大切です。授業の振り返りの場面で、子ども自身が本時の活動を振り返り、はたらかせた力を実感できる授業を積み重ねていきましょう。

～ ご来場 ありがとうございます ～

平成28年12月10日(土) 実施

～ 来て、見て、知ろう!! 専門高校の新しい学び ～

第13回 生徒研究発表会

県下の専門高校・総合学科高校の生徒、関係者187名の皆様にご来場いただきました。
ステージ発表では、農業・工業・商業・家庭・福祉の各分野で15団体が学習成果を発表し、交流会では27団体が作品展示、実演、販売実習を行いました。



来場者の感想

高校生の説明がとても良かった。こんなことができるようになるんだ!と思えた。(中学生)

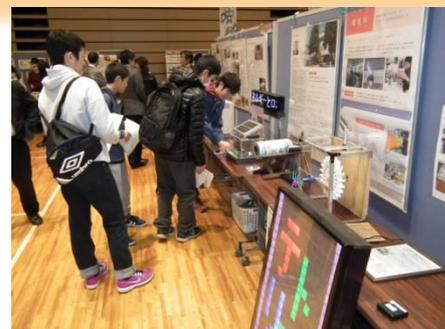


初めて来させてもらいましたが、本当に素晴らしかった。刺激になりました。日本の将来は明るいと思いました。(中学校職員)

専門科連携や異分野連携が進んでいることを強く感じました。(高校職員)

専門の学びの中から、研究したり、感じた意見の発表は、課題解決型の学習に最も有効であり、すべての発表が良かった。(来賓)

どの発表も、社会で通用する見事なものでした。ぜひ、中学生に聞かせたい、見せたい内容です。(来賓)



ステージ 発表校

須坂園芸・須坂創成	上田千曲
丸子修学館	小諸商業
富士見	佐久平総合技術
駒ヶ根工業	上伊那農業
木曾青峰	赤穂
エクセラ	飯田OIDE長姫
	池田工業
	松商学園

展示・実演・販売 発表校

中野立志館	長野工業	屋代南
上田千曲	駒ヶ根工業	下伊那農業
飯田OIDE長姫		諏訪実業
塩尻志学館	松本工業	南安曇農業
穂高商業	池田工業	エクセラ
松商学園		

平成 29 年 2 月 17 日 (金) 開催

「センター研究発表会」参加受付中!!

申込み締切いは平成 29 年 2 月 10 日(金)です。



講演会 9:50~11:40

「グローバル時代を 生き抜くために」



講師：村上 憲郎氏

元 Google 米国本社 副社長兼 Google Japan 代表取締役社長、株式会社村上憲郎事務所 代表取締役

発表会の内容の詳細については、近日中に各学校宛て送付の、「センター研究発表会 第2次案内」をご覧ください。

小・中・高・特別支援学校の教職員、教育関係機関等の職員の皆様、ぜひご参加ください。



分科会①12:40~14:10 分科会②14:30~16:00
各プロジェクトの研究発表にもご期待ください!!

分科会 1 (12:40~14:10)

A 『職場の同僚性を高め 若手の成長を支える 職場づくり』

若手が様々な経験を通して成長していくために、私たち一人ひとりに何ができるのか、様々な角度から一緒に考えましょう。

B 『不登校への対応の あり方を考える』

子ども一人一人の願いや訴えに心を寄せるためのヒントを提供します。不登校への対応のあり方を一緒に考えましょう。

C 『学力向上につながる 授業づくり』

学力向上を目指して、研修講座の内容と現場での実践を関連させた、総合教育センターだからこそできる、現場で生かせる実践的な発表です。

休憩 (20分)

分科会 2 (14:30~16:00)

D 『個に居場所がある 学級づくり』

~教師が子どもと共に歩む
学級づくりを通して~

子どもと教師の具体的な姿を通して、学級づくりに役立つポイントについて提案します。学級づくりについて一緒に考えましょう。

E 『アクティブ・ラーニング の視点に立った 授業改善に向けて』

発表する場面や、グループ協議をする場面を授業に取り入れれば、アクティブ・ラーニングになるのか一緒に考えましょう。

F 『ICTの効果的な活用と 反転学習の取組 について』

ICTを効果的に活用した、新たな「学び」やそれを実現していくための取組を一緒に考えましょう。

連絡・アンケート記入

研修講座から

子どもの心の問題への対応 ～発達障がい理解と医療との連携～ (6月29日)

この講座は、予定を大きく上回る数の受講希望があり、125名の先生方が受講しました。
「心の健康に何らかの問題を抱える子どもや発達障がいなど医療的な支援が必要と思われる子どもへの理解を深め、一人一人の子どもに応じた具体的な支援について学ぶ。」

<講座の主な内容>

実践発表 「子どもに応じた支援～あさひ分校の取組から～」
松本市立女鳥羽中学校あさひ分校 教頭 齋藤 良直

講 義 「子どもの心の問題への対応」
信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部長 医師 本田 秀夫

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・「ガツガツやらない」「無理をさせない」というおおらかなキーワードが心に刺さりました。
- ・小学校低学年から思春期にかけて、教師や保護者まわりの大人としての接し方のポイントが分かりやすく、早速やってみようと思いました。
- ・発達障がい児の理解、医療的アプローチ、支援・指導の方法と多方面から話しをしていただき勉強になりました。
- ・ADHDの子どもへの良かれと思ってしてきた支援が合理的配慮だったのかな？と自分に問いながら学ばせていただきました。
- ・具体的な言葉がけの事例が大変参考になった。

講座の資料(本田先生のスライド)から

接し方のポイント

- (1) 先に本人の言い分を聞く
- (2) 命令でなく提案する
- (3) 言行一致を心がける
- (4) 感情的にならない
- (5) 情報を視覚呈示する
- (6) 見えにくいことを言語(書面)で構造化する
- (7) こだわりはうまく利用する



ICT利活用を推進するために ～ICT導入に伴う校内研修等の進め方～ (7月7日)

この講座は、次の2点をねらいとして実施され、18名が受講しました。

- (1)校内でICT利活用を推進するために、最新の情勢や授業におけるICT機器の活用意義を知り、校内の研修方法や授業における活用方法について学ぶ。
- (2)学習者用のICT機器(タブレット端末)や協働的な学習ができるソフトについて、どのような活用法や授業展開ができるのか、実習を通して知る。

<講座の主な内容>

講義「ICT活用のステップアップを考える」 信州大学学術研究院教育学系教授
附属次世代型及び研究開発センター長 村松 浩幸
実践発表「ICTパイロット校と呼ばれて」 箕輪町立箕輪中学校教諭 五味 和
演習「校内研修会の進め方」 総合教育センター専門主事 宮原 啓一
講義「教育改革を踏まえた教育の情報化」 文部科学省生涯学習政策局情報教育課
情報教育振興室長 新津 勝二

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・まずは、触れて使ってみるという軽いスタンスから始まる研修が良いと思いました。
- ・教師→子ども→協働学習のステップアップに取り組めるよう、現在学校にある機器を先生方が使えるようになる研修を行いたいと思いました。
- ・自校で使えるところは使わせていただこうと思います。
- ・授業のねらいに合わせてICTをツールの一つとして効果的に使いたいと思いました。

講座の資料(新津先生のスライド)から

